



<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>ライフサポートワーカーの活動をしっかり行うために、職員でまず話し合いを行う。業務上の役割から、ライフサポートワーカー活動量が均等でない。それゆえ活動内容の理解にばらつきがある。今年度はそれを改善していきたい。地域の方々が気軽に相談できるような関係性作りをするために、どのような企画が良いのか、まずは職員で定期的に話し合いの時間をつくる。また、地域包括と共有しイベントの企画をしたり、民生委員や町内にイベントの企画を案内したり、地域の力をお借りして活動を継続的に行っていく。</p>	<p>生活支援コーディネーターをほぼすべての常勤職員が担うことで、いままで参加が限定的だったカフェをはじめとする地域イベントに万遍なく多くの職員がかかわれるようになってきた。そのなかで、地域住民と新しい関係性を築きながらそれぞれがどのように地域とつながっていけるのか考え始めている。</p>	<p>利用者家族「食事イベントの手伝いをさせてもらっているが、私たちも楽しんでやっている。母もすごくよく見て頂いたので、お手伝いできるときはしたい。」 →町内会長「そういう家族の気持ちをインタビュー形式でパンフにすれば？そうすると広報にもいかせるかも？」</p>	<p>いま取り組んでいるイベントを継続していく。その上で、より多くの方が参加したくなるように、広報の仕方を工夫していく。まずはチラシのリニューアルに取り組む。また、職員間での意見交換は継続して行っていきたい。介護を必要とされる方だけではなく、様々な地域の方の拠り所となるためにはどうすればいいのか、事業所全体で話し合う機会を持って行く。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>ライフサポートワーク活動のイベントは地域の方だけの参加でなく、ひつじ雲の利用者も参加する。地域の方と知り合うきっかけにもなる。また利用者の方が、元々参加していた催しに継続して参加できるように支援を続ける。今年度行った「カレーの会」の調理の機会など、ご本人の役割を發揮して貰う機会も作っていく。</p>	<p>ひつじカフェやひまわりカフェなど、参加したい利用者に関しては継続して集まりに参加できるように支援している。また、月1回の食事イベントにも利用者に主体的にかかわってもらえるように工夫をしながら、毎回2名の利用者に継続して参加していただいている。</p>	<p>包括職員「うちでもイベント情報を持っているので、そういったものを共有できるようにしたい。そこでお互いに利用者も含めて参加できればより活発な地域になるのではないかと？」</p>	<p>コミュニティカフェへの参加は継続していく。また利用者が、元々参加していた催しに継続して参加できるように支援していく。それ以外にも、包括や社協などから情報収集を行い、地域と利用者のつながりが途切れてしまわないように積極的に他の社会資源も活用していく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>推進会議は、事業所の取り組みを伝えられる貴重な機会である。より多くの方々に伝えることができるように、集いやすい会にしていく。今回はバザーを開催してはとご意見あったので、地域の方の協力を得て開催を予定する。開催場所、時期など皆で検討する。ライフサポートワーク活動などの理解をさらに深めて頂くよう、今後も活動内容の報告・相談をし</p>	<p>毎回、推進会議ではひつじ雲の現状や将来について出席者と意見交換ができています。実際、無事バザーの開催もすることができた。取組んでいることについても、よく知っていただいているように思う。今後は、より広く現参加者以外にもどのように広報していくのかを考えていく必要がある。</p>	<p>町内会長「町内会や老人クラブでも、閉じこもり予防が課題。特に男性。ひつじ雲のような地域の集まりに参加してくれるといいなと思う。今度3月に南河原公園で桜を見る会をやるのでそこでパンフを配ったらどう？」</p>	<p>推進会議でいただいた意見を確実に運営に反映できるように行動していく。まずはパンフづくりに着手。自分たちの取り組みをより知っていただけるような工夫を継続して行っていく。また、地域の困りごとを収集する場としても推進会議を活用したい。その上で、自事業所が地域のために何ができるかを考え、取り</p>

	ていく。 災害時の協力体制が取れる様に、定期的に議題に上げていく。			組んでいきたい。
F. 事業所の 防災・災害対策	災害に備え、避難訓練は定期的に行う。実際を想定して、初期対応や、通報の手段など繰り返し訓練していく。利用者の介護度変更や、新規利用などあるので、「高齢者災害時個別避難計画」を随時見直しする。実態に則した内容を検討していく。 防災、災害時は地域との連携が重要。町内と連携が取れるような関係作りをしていく。	定期的な訓練は実施している。また、利用者ごとの事情・環境にあわせた災害時の避難計画作成も継続して行っている。 町内との連携も町内会を中心に情報収集しながら災害時の対策を行っていく。	町会長「災害時に連携して動くことは実際には難しいと思う。まずは自分たちだけで数日なんとかするための備えをするべき。非常時には自分のことで精いっぱいになってしまうと思う。」	定期的な訓練は繰り返し行っていく。より利用者一人ひとりの状況にあわせた避難計画の作成を行う必要がある。 また、災害時の職員同士の連絡体制も再度見直しを行う。防災ラジオや防災アプリの整備も進める。